

のしま、狹衣言葉の聞しらぬを、うるまのしま人よといへるなり、琉球をさしていふにはあらず、さるを下紐と云解に、うるまは琉球なりとあり、依て今世の人只一筋に琉球の事と思へり、公任卿の集に、しらぎのうるまのしま人とあれば、新羅に屬せし島とみえたり、鬼島保元平治物語おきなはしまの下略なり、屋其惹土俗自稱おきなとは沖繩の下略にて、其國の形ち細く長く、繩の如く海中に浮べりと云意にて、沖繩島也と先輩いへり、惡鬼納同上於伎夜同上宇伎夜同上共におきなの轉也、ウとオ普通す、

〔性靈集五〕爲大使與福州觀察使書一首

賀能啓略○中今我國主顧先祖之貽謀、慕今帝之德化、謹差太政官右大辨正三位兼行越前國大守藤

原朝臣賀能等充使、奉獻國信別貢等物、賀能等忘身銜僉、冒死入海、他既辭本涯、比及中途平、暴雨穿

帆平、戕風折柁他、高波波漢他、短舟裔裔他、飄風朝扇他、摧肝耽羅之狼心平、北氣夕發平、失膽留求之

虎性、

〔元亨釋書三〕釋圓珍、姓和氏、讚州那珂郡人、略○中初珍泛洋、北風俄起、漂流求國、遙見數十人持戈矛、

立濱坻、良暉悲泣、謂珍曰、我等當爲流求所噬、爲之如何、蓋流求者、海島之啖人國也、

〔杜氏通典百八十六〕東夷 琉球

煬帝大業初、海帥何蠻等云、每春秋二時、天清氣靜、東向依稀、似有煙霧之氣、亦不知幾千里、三年、帝

令羽騎尉朱寬入海求訪異俗、得何蠻、遂與俱往、因到琉球國、言不相通、掠一人、并取其布甲而還、時

倭國使來朝、見之曰、此夷邪久國人所用也、帝遣虎賁郎將陳稜、朝請大夫張鎮州、率兵自義安今潮陽郡

浮海擊之、至琉球、初稜將南方諸國人從軍、有崑崙人頗解其語、遣人慰諭之、琉球不從、拒逆官軍、稜

擊走之、進至其都、頻戰皆敗、毀其宮室、虜其男女數千人而還、

〔五雜俎四〕琉球國小而貧弱、不能自立、雖受中國冊封、而亦臣服於倭、倭使至者不絕、與中國使相錯